

銀泉天王寺ビル



外観

「銀泉天王寺ビル」は、JR、大阪メトロの各線天王寺駅より徒歩1〜3分程度の駅近に位置し、通勤などの利便性に優れた賃貸オフィスビル。



1Fバリアフリースイ



ビルのワーカーだけでなく、1F店舗への来客者が車いす使用者やお子様連れであることも想定したバリアフリースイ。大便器は清掃性のよい壁掛式を採用している。

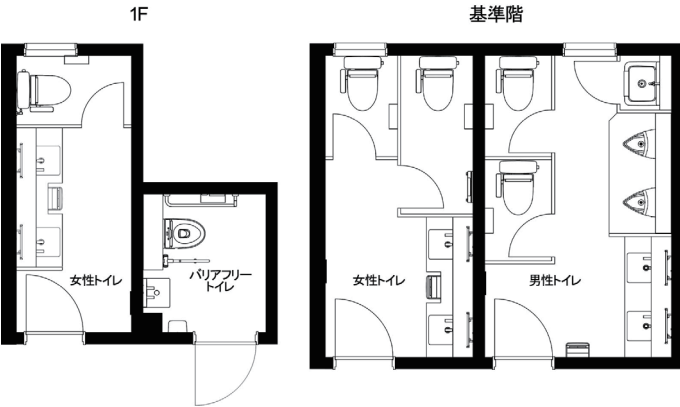


1F女性スイ



さまざまな利用者が想定された1F女性スイは、特に防犯対策向上を図るために、大便器ブースの仕切り壁を天井まで立ち上げ、扉上下の隙間を最小限としている。

スイ図面



水まわりの特長

改修の経緯

銀泉天王寺ビルは、1993年（平成5年）に竣工した賃貸オフィスビル。最寄駅である大阪メトロ谷町線「天王寺駅」から徒歩1分、JR大阪環状線「天王寺駅」から徒歩2分、大阪メトロ御堂筋線「天王寺駅」から徒歩3分の距離に位置、通勤や外出の際に利便性がよい立地を誇る。天王寺周辺は、繁華街・オフィス街・公園などからなり、大阪市においてキタ・ミナミに次ぐ繁華街の規模を有する。今回、テナントの満足度の向上を図るために、全フロア（1〜8F）のすべてのスイを改修。約10ヶ月の期間をかけ順次実施された。

スイの特長

1Fのスイは共用スイで、ビルのワーカーだけでなく、1F店舗への来客者が車いす使用者やお子様連れであることも想定したバリアフリースイと女性スイが設置されている。2Fから8Fの基準階スイはテナント用。改修にあたっては、衛生面の向上を目指し、自動水栓、自動水石けん供給栓、クリーンドライ（ハンドドライヤー）、自動洗浄小便器、足踏み式のチャームボックス（汚物入れ）といった、非接触、自動化器具が多く採用された。また内装は、維持管理面で清掃しやすい仕上げとし、化粧ケイカル板を採用。シンプルですっきりとした内装デザインを基調としながら、洗面コーナーの壁面にボーダータイルを採用し、空間にアクセントを加えている。

建築概要

名称	銀泉天王寺ビル
所在地	大阪市天王寺区堀越町13-18
施主	銀泉株式会社
基本設計	東西建築サービス株式会社
実施設計	サノヤス・エンテック株式会社（旧社名：山田工業株式会社）
施工	建築 東西建築サービス株式会社 設備 サノヤス・エンテック株式会社（旧社名：山田工業株式会社）
竣工年月	（改修）2022年3月
敷地面積	619.82㎡
建築面積	510.37㎡
延床面積	4,035.94㎡
構造・階数	鉄骨鉄筋コンクリート造・地下1階、地上8階、塔屋1階

おもなTOTO使用機器

壁掛大便器セット・フラッシュタンク式:UAXC3CS1BN
パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式:CFS498BMK
ウォシュレットP:TCF587／棚付二連紙巻器:YH702
自動洗浄小便器:UFS900R
ツインデッキカウンター（ハンドドライヤーセットプラン）:MKWE
壁掛ハイバック洗面器:LSA125DC／壁付自動水栓:TENA125A
クリーンドライ（ハンドドライヤー）:TYC420WC
チャームボックス（汚物入れ）:YKB102／フッティングボード:YKA41R



基準階 男性スイ
洗面コーナー

タイルだった内装全体の素材を、意匠性、清掃性、維持管理面から、化粧ケイカル板に変更。また洗面コーナーの壁面には、アクセントボーダータイルを用いて空間にアクセントを加えている。



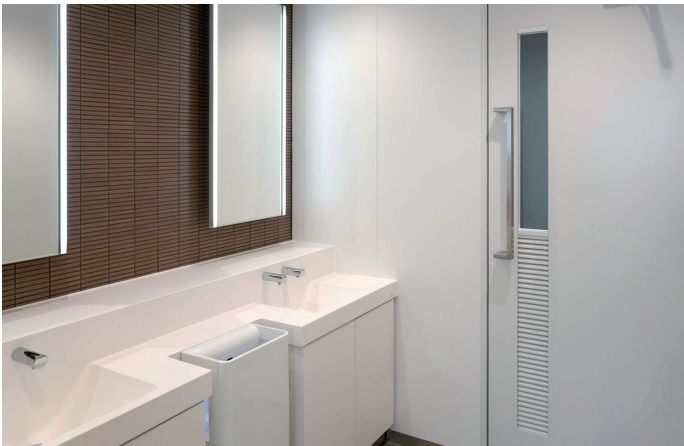
基準階 男性スイ
小便器コーナー

シンプルなデザインと節水機能を両立した壁掛型の自動洗浄小便器を設置。



基準階 男性スイ
大便器ブース

大便器は、節水性や意匠性、省スペース、さらに施工性までを考慮して、パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式を採用。



基準階 女性スイ
洗面コーナー

洗面は2段のカウンターでドライエリアを設け、荷物の置き場所に配慮した機能的なツインデッキカウンターを採用。また手洗い後の水垂れを抑えるため、洗面器の間にクリーンドライ（ハンドドライヤー）を設置している。



基準階 女性スイ
大便器ブース

広めの大便器ブースには、着替えや荷物置きなどに使用できるフッティングボードを設置。またチャームボックス（汚物入れ）は、手を触れずにふたが開けられる足踏み式を採用している。



改修前



改修前は、清潔に保たれていたが、和式便器などが残っており、ビルのバリューアップを図るため、全面タイルであった内装を含め、スイ全体を改修した。